

講座『みんなで町の自然を調べよう～夏の七草の分布しらべ～』 及び学習参考資料展『みんなで調べた今夏の大磯町の花』の 実施報告

* 北水 慶一

1. はじめに

大磯町郷土資料館では、前年度に引き続き教育普及活動事業と企画展事業を連動させた企画を実施した。教育普及活動事業に位置づける植物分布調査と企画展事業とを組み合わせたものである。前回は春の植物を対象に実施しており、今回は次節である夏の植物を対象とした。企画の進め方は、春の植物調査の企画と同様に調査と展示とをセットとして進め、企画展会期中にも調査を行ない、その都度、調査の結果を反映させるというやり方で進めた。本稿では企画の進行を紹介するとともに一連の調査の結果を紹介する。

2. 講座『みんなで町の自然を調べよう～夏の七草の分布しらべ～』の実施

2-1. 調査方法

1) 調査員

調査員は植物調査に慣れている方、不慣れな方を問わず、町広報で募集し、参加を募った。呼びかけに対して大磯町、二宮町在住の30人の方々にご応募いただいた。

2) 調査期間

調査期間は1年間で24の時期に分ける二十四節気をもとに、立夏(5月6日)から立秋の前日(8月7日)までを調査期間とした。

3) 調査対象の植物

調査対象の植物は調査参加者との話し合いのもと、14種類に絞り込んだ。前回の春の植物の調査の時は、事前に当館で候補をあげ、その候補の中から調査参加者の方々に選んでいただいたが、今回は夏の七草という一案はあったもののほぼ白紙の状態であった。最終的に大枠は「夏の七草」、「ヒルガオ」、「ウツギ」、「ミズキ」とした。夏の七草はホームページ等で調べるといくつかの7種類の植物の組み合わせがあったが、今回の調査では、栃木県立図書館のホームページを参考に1945(昭和20)年に日本学術振興会学術部・野生植物

活用小委員会が選定した夏の七草を対象とした。アカザ、ヒユ、イノコヅチ、スベリヒユ、シロツメクサ、ヒメジョオン、ツククサであり、このうち大磯町では確認記録のないヒユは除外した。

「ヒルガオ」は調査参加者から上がった意見を採用した。大磯町の町の花がハマヒルガオであることから提案されたものである。ヒルガオ属の植物であるヒルガオ、コヒルガオ、ハマヒルガオを対象とした。

「ウツギ」、「ミズキ」は山野を中心に大磯町でよく見られる植物である。調査対象とした理由は「夏の七草」、「ヒルガオ」は草本であり、木本についても対象植物として含めた方がよいという意見が出たことによる。「ウツギ」はウツギ属の植物であるウツギ、ヒメウツギ、マルバウツギを、「ミズキ」はミズキ属の植物であるミズキ、クマノミズキを対象とした。

4) 調査方法

調査は合同調査、個別調査の2種類で実施した。

合同調査は種の見分け方や確認できそうな環境等の情報交換を目的に調査期間中に3回行なった。運動公園や大磯駅等参加者が集まりやすい場所に集合し、巡回後また同じ場所で解散できるようにコースを組んだ。個別調査では大磯町を17の区域に分け、それぞれの区域に担当者をあてて、都合のよい時に巡回できるようにした。

2-2. 調査の結果

それぞれの調査の結果は、図2から図15のとおりである。地図上に確認したポイントを赤い丸印で示している。実際の調査では確認した場所で株数を数え、10株以上と10株未満の場所では表記の仕方を変えたが、本稿の図では、特に区別をせず、確認したポイントのみを紹介している。

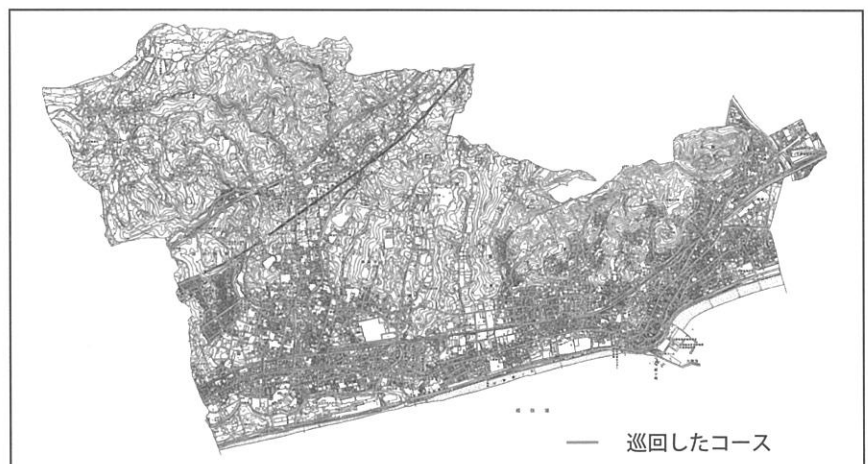


図1 巡回したコース

大磯町1995年発行「大磯町全図(1万分の1)」の地図を縮小して使用)

(* 当館学芸員)



図2 アカザ (シロザを含む) の分布



図3 イノコヅチ (ヒカゲイノコヅチを含む) の分布

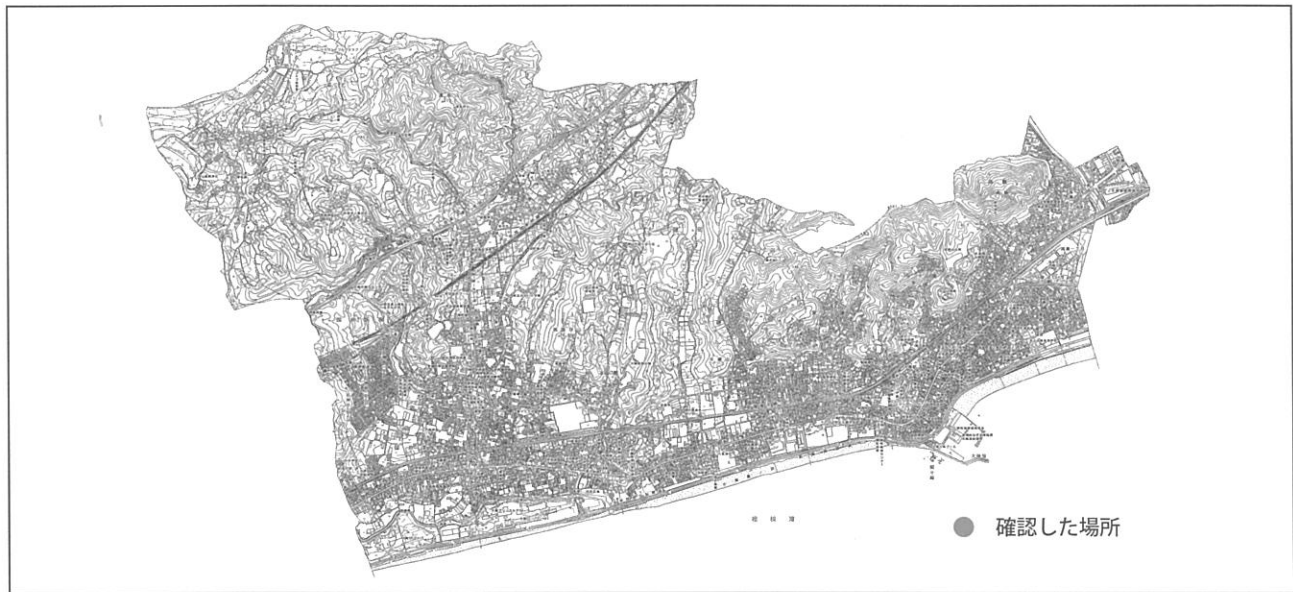


図4 スベリヒユの分布



図5 シロツメクサの分布



図6 ヒメジョオンの分布



図7 ツユクサの分布



図8 ヒルガオの分布



図9 コヒルガオの分布



図10 ハマヒルガオの分布



図 11 ウツギの分布



図 12 ヒメウツギの分布



図 13 マルバウツギの分布



図 14 ミズキの分布



図 15 クマノミズキの分布



図 16 調査の様子

1) 夏の七草

前述のとおり、ヒユを除く 6 種類を調査対象とした。今回の調査ではアカザは花序が出る頃はシロザとの見分けがつきにくくなることから、シロザも含めて記録を取ることにした。また、イノコヅチも同様に調査の時期は花序が出る前のものばかりで、同定のポイントとなる付属体の確認ができなため、ヒナタイノコヅチ、ヒカゲイノコヅチの区別はせず、一括りにイノコヅチとして記録した。

調査対象とした 6 種類をすべて確認することができた。特にツユクサが多く見られた。イノコヅチ、ヒメジョオン、ツユクサは住宅地、丘陵地のいずれでもよく確認でき、アカザ、スベリヒユ、シロツメクサは住宅地の空き地や田畑の脇でよく見られた。

調査に参加された方から、何度も見ることでハルジオン、ヒメジョオンの違いがよく分かったと意見をいただいた。また、スベリヒユは調査の前半はあまり植物自体が見られず、終盤頃からようやく花が見られるようになった。

2) ヒルガオ

調査の実施前から分かっていたことではあるが、ハマヒルガオは海岸を中心に見られた。住宅地でも 3 箇所で見られた。ヒルガオ、コヒルガオは丘陵地を中心に、道路沿いでよく見られた。ツル性の植物であるため、フェンスに絡んでいるものを見かけることが多かった。分布図をまとめて分かったことだが、ヒルガオとコヒルガオは分布が非常に似ていた。株数についてはヒルガオの方がやや多かった。

3) ウツギ

3 種類とも確認できた。ヒメウツギは少なく確認できた場所は丘陵地 3 箇所と住宅地 1 箇所であった。ウツギは住宅地や住宅地から丘陵に入る道路沿いを中心に見られた。マルバウツギは山間の道路沿いでよく見られた。本調査で最も驚いたのは、マルバウツギの多さである。丘陵地の道路沿いの山側にはマ

ルバウツギが連続して見られた。樹木としては本町で最も多い種のひとつではないかと思われた。

4) ミズキ

ミズキとクマノミズキでは開花時期が 1 ヶ月異なるため、容易に見分けることができた。ミズキ、クマノミズキは同じような場所で見られた。特に丘陵地の道路沿いが多かった。確認した本数はミズキの方が多かった。

3. 学習参考資料展『みんなで調べた 今夏の大磯町の花』の開催

調査は 8 月 7 日までであったが、調査が完了する 15 日前の 7 月 23 日から学習参考資料展を開催した。学習参考資料展という展示名称にしたのは、小学校理科「生き物の暮らし (2) 夏の自然」、中学校理科の「植物の世界」の学習に合わせた展示内容にしたことによる。

展示の準備は、調査に参加された方にもご協力いただいた。7 月 12 日、7 月 14 日、7 月 15 日、7 月 20 日の 4 日間で、調査結果の集計とともに企画展示室での地図の掲示をしていただいた。

展示の構成は、「夏の七草」、「ヒルガオ」、「ウツギ」、「ミズキ」という項目別にあげた個々の種類の分布状況を地図で紹介するとともに調査期間に確認した夏の花の写真を紹介するものであった。夏の花の写真の展示とは、立夏 (5 月 6 日) から立秋の前日 (8 月 7 日) までの期間に大磯町内で撮影された花の写真を展示するものであり、調査に参加された方はもちろんのこと、チラシや展示を見られた一般の方からもご提供をいただいた。最終的に 10 人の方々からご提供いただいた。会期中に徐々に手を加え、学習参考資料展初日の写真の展示枚数は 61 枚であったが、最終的に 92 枚となった。記録として展示した写真の一覧を表 1 に紹介する。



図 17 夏の花の展示風景

表1. 展示した夏の花の写真リスト

No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者	No.	種名・品種名	撮影日	撮影場所	撮影者
1	アカメガシワ	6月25日	大磯		47	ツユクサ	6月26日	国府新宿	吉川 武士
2	イタチハギ	5月21日	国府新宿	平島 靖士	48	テイカカズラ	6月8日	生沢	
3	イチヤクソウ	6月8日	生沢		49	テリハノイバラ	7月9日	東小磯	
4	イヌビワ	7月9日	大磯		50	トキワツユクサ	6月23日	西小磯	
5	イワニガナ	5月15日	西小磯		51	ドクダミ	6月8日	生沢	
6	ウサギアオイ	5月13日	国府新宿	吉川 武士	52	トベラ	5月25日	大磯	
7	ウシハコベ	5月14日	西小磯		53	ナツズイセン	(未詳)	大磯	安永 一夫
8	ウツギ	6月1日	生沢		54	ナツツバキ	6月23日	西小磯	
9	エゴノキ	5月26日	西小磯		55	ナンテン	6月23日	西小磯	
10	エノコログサ	7月16日	西小磯	曾根 ハツエ	56	ネジバナ	6月23日	西小磯	
11	オオジシバリ	(未詳)	大磯	安永 一夫	57	ネズミモチ	(未詳)	月京	蓑島 淳子
12	オオバウマノズクサ	5月14日	西小磯		58	ネムノキ	7月9日	西小磯	
13	オカタイトゴメ	6月24日	国府新宿	吉川 武士	59	ノアザミ	6月8日	生沢	
14	オカヒジキ	7月9日	東小磯		60	ハコネウツギ	6月8日	生沢	
15	オドリコソウ	5月14日	国府本郷		61	ハハコグサ	6月8日	生沢	
16	オニユリ	7月29日	西小磯		62	ハマゴウ	7月9日	西小磯	蓑島 淳子
17	カナメモチ	5月14日	西小磯		63	ハマゴウ	7月9日	西小磯	
18	カラスウリ	(未詳)	大磯	安永 一夫	64	ハマヒルガオ	5月25日	大磯	
19	キショウブ	6月1日	生沢		65	ハマボウフウ	7月8日	東町	
20	キツネアザミ	5月14日	西小磯		66	ハルジオン	6月1日	生沢	
21	キョウチクトウ	(未詳)	大磯	安永 一夫	67	ヒメジョオン	6月8日	生沢	
22	キンシバイ	6月25日	大磯		68	ヒメヒオウギズイセン	(未詳)	大磯	安永 一夫
23	クマノミズキ	6月25日	大磯		69	ヒメヤブラン	7月9日	西小磯	
24	クララ	(未詳)	大磯	安永 一夫	70	ヒルガオ	6月8日	生沢	
25	クリ	6月17日	国府本郷	内山 千代子	71	ヒルザキツキミソウ	7月8日	東町	
26	クリ	(未詳)	大磯	安永 一夫	72	ヘクソカズラ	7月9日	西小磯	吉川 武士
27	クロガネモチ	6月17日	国府本郷	内山 千代子	73	ホタルカズラ	5月17日	虫窪	村田 愈子
28	クサフジ	6月23日	寺坂		74	ホタルブクロ	6月8日	生沢	
29	ケカモノハシ	7月9日	西小磯		75	マサキ	7月8日	東町	
30	ケキツネノボタン	6月8日	生沢		76	マツバウンラン	6月8日	生沢	
31	ケンボナシ	6月23日	虫窪	村田 愈子	77	マユミ	5月21日	西小磯	
32	コゴメウツギ	5月15日	虫窪	村田 愈子	78	マルバウツギ	6月1日	生沢	
33	コバンソウ	5月13日	国府新宿		79	マルバシャリンバイ	(未詳)	大磯	安永 一夫
34	コヒルガオ	6月8日	生沢		80	ミズキ	5月14日	西小磯	
35	コモチマンネングサ	6月25日	大磯		81	ミヤコグサ	(未詳)	大磯	安永 一夫
36	コンフリー	(未詳)	大磯	安永 一夫	82	ムシトリナデシコ	6月8日	生沢	
37	サラサドウダン	5月15日	虫窪	村田 愈子	83	ムラサキカタバミ	5月14日	西小磯	
38	シモツケ	6月23日	西小磯		84	ムラサキサギゴケ	5月14日	西小磯	
39	シロザ	(未詳)	大磯	安永 一夫	85	ムラサキツメクサ	7月8日	国府新宿	吉川 武士
40	スイカズラ	5月18日	国府本郷	内山 千代子	86	ムラサキツユクサ	5月14日	西小磯	
41	スイカズラ	6月8日	生沢		87	ヤブカラシ	6月24日	国府新宿	吉川 武士
42	スイバ	(未詳)	大磯	安永 一夫	88	ヤブカンゾウ	7月7日	国府本郷	内田 千代子
43	スベリヒユ	7月18日	国府本郷	加藤 喜規	89	ヤブニッケイ	6月23日	西小磯	
44	センダン	5月25日	国府本郷	平島 靖士	90	ヤブニッケイ	6月23日	西小磯	
45	ソクズ	7月18日	虫窪	村田 愈子	91	ヤマユリ	7月30日	虫窪	土方 澄江
46	タツナミソウ	5月16日	虫窪	村田 愈子	92	ユキノシタ	6月8日	生沢	

「撮影者」欄の未記載のものは、郷土資料館職員が撮影したもの

4. まとめ

学習参考資料展『みんなで調べた 今夏の大磯町の花』は前年度に実施した学習参考資料展『みんなで調べた今年の大磯町の春花』と同じ手順で企画を進めた。展示を開始する3ヶ月前のガイダンスの時点から資料の収集を始めた。当初は1年目の経験から、調査を順調に進めることができるだろうと考えていたが、梅雨時であったため、5月下旬と6月中旬に予定した合同調査が雨天のため、中止になった。6月下旬になると気温が上がり、思うように町内を巡回することが難しくなった。そのため最終的に春の調査よりも巡回したコースは短くなってしまったが、調査員の方々のご協力により大磯町全域を巡回することができた。調査には30人の方々に参加していただいた。多くは春の調査を経験されている方々であり、個別調査も慣れている前年度と同じ場所を希望される方がほとんどであった。調査に参加された方から、本調査は大磯町内に住んでいても歩いたことのない場所を巡回することができるのでよい。繰り返し同じ植物を見るので他種と細かな違いが理解できるという感想をいただいている。前年度の調査と比較して気候の面では、難しさを感じたが、樹木の葉が次第に青みを増し、草花も春とは異なる種類が見られるようになり、春から夏への季節の移り変わりがはっきりと分かる自然に十分に親しめる企画が進められたと思う。

ただし、前回と同様の反省になるが、本展は展示資料が写真と図に偏り、実物の資料が少ない展示となった。根拠標本を残していきたいと考えているが、

時間的に手が回らない状況となっている。今後、秋、冬の植物調査を進める中で解決策を見つけていきたい。

最後に調査及び展示準備にご参加いただいた方の名前を記して、感謝申し上げます。

秋山京子・内山千代子・大久保恵美子・大久保武・小寺美智子・小野恵子・小宅昭樹・加藤喜規・川原一恵・菊池なつみ・小山由雄・鈴木昭夫・曾根ハツエ・外川敏子・中村ふぢ・畠山恵子・曳野義子・平島靖士・布施鈴子・松島まり子・蓑島淳子・宮川紀子・村上敦子・村田愈子・安永一夫・柳田利幸・柳田道雄・矢部良子・吉川武士・和田美乃

(敬称略)

5. 参考文献

- 浅野貞夫・廣田伸七(2002)『似た草80種の見分け方』全国農村教育協会
- いがりまさし(2008)『花色で引ける・見分け方がわかる〔開花順〕四季の野の花図鑑』技術評論社
- 神奈川県植物誌調査会編(2001)『神奈川県植物誌2001』神奈川県立生命の星・地球博物館
- 林弥栄ほか監修(2003)『樹木 見分けのポイント図鑑』講談社
- 林弥栄ほか監修(2003)『野草 見分けのポイント図鑑』講談社
- http://www.lib.pref.tochigi.jp/reference_ex/allr/r072.htm